

原料回収に園児協力

キーホルダー

水沢工 3年生 課題研究で地域連携

県立水沢工業高校
(日常仁)校長、生徒376人の機械科3年生6人は、SDGs(エ

ステイジーズ、持続可能な開発目標)に基づき、アルミ缶をリサイクルしたキーホルダー作りに取り組んでいる。13日、生徒たちが江刺の市立幼保連携型認定こども園稲瀬わかば

園(有住百香里園長、園児86人)を訪れ、回収に協力してもらったア

ルミ缶を受け取った。3年生が取り組む課題研究で、グループご



園児たちから空き缶を受け取る生徒たち

とに活動内容を設定して実施。キーホルダー作りのメンバーは本年度、市環境市民会議・奥州めぐみネットのSDGs学習会を皮切りに、市内企業で鋳造や原型製作の学びを深め、原料となる空き缶回収の協力も得るなど地域連携を通じたキーホルダー作製を目指している。

同日、生徒たちは大量のアルミ缶を園児たちから手渡された。アルミ缶は今月5～12日にかけて園児や職員が同園に持ち寄り、90袋入り袋三つ分に到達。園児たちは「よろしくお願いします」と元氣いっぱいメールを送り、生徒たちは「頑張ります」とこやかに応じていた。

キーホルダーのデザインには奥州市版SD

Gsのシンボルマークや同校の校章を取り入れ、150個を目標に量産する計画。12月に再び同園を訪ね、園児や職員に完成作品をプレゼントする予定という。高橋孝輔さん(17)は「空き缶が捨てられるか再利用されるかは大きな違い。SDGsにつながる取り組みができることを園児たちに伝えていきたい」と話していた。